

# 全国紙上数学談話会 第9号

## 24. 新著紹介

吉田耕作(阪大)

Arné Bewrling: Thèse pour le doctorat, "Études sur un problème de majoration," Upsal, 1933

最近入手ニツモテ"ス。普通、単行本テ"ナイ様テ"スカヲ御紹介スルノモ無馬太テ"ナイダ"ロウト思、ヒマス。

酷暑、事テ"スカヲ、サ"ツト目ヲ通ニツ丈テ"スカ、函数論近來ノ小著ト感激ニツ其感激、消エナイ中ニ。尚筆者ハFock書店ノ手ヲ通ニテ買ツタ、テ"スカ 4.5 Markテ"シタ。

内容ハ Harmonische Majorant、理論。"或領域ニ於テ調和ノ函数  $\neq \text{const}$ 、其最大値ヲ此領域ノ内部ニ於テトリ得ナイ"ト云フ簡單ノ principle ガ函数論ノ多クノ問題ニ於テ如何ニ有力ノ效果ヲ發揮シテヨルカハ周知ノ通りテ"ス。從ツテ或條件ヲ満足スル調和函数(例ヘバ其領域ト boundary value トニ或程度ノ制限ヲ与ヘラレタ)——其制限ノ程度ニヨツテハ、之ニヨリテ調和函数ガ uniqueニ定ラナイカモシレマセン。ソノトキハ此制限ノ下ニアル調和函数ノ class)ノ majoration (之ヲ上或ハ下カラ押ヘル実函数ヲ見出スコト)ニ関スル理論ガ精ニク出来レバ其函数論ニ対スル寄与ノ大キナコトハ言フ迄モアリマスマイ。現ニ Bewrlingハ其一般理論ノ Quelques applications トニテ (Abelfor ト独立ニ) Denjoy' Vermutung 及ビ (E. Schmidt ト独立ニ)

Miloux / constant を極大で自然 = 且 簡單 = 出シテヨリマス。

重要之結果ハ定理1, 2 及レ" lemma

初メ = イツカノ定義ヲ与ヘトキマス。Dヲ單一連結ニシテ且其境界ガ少クトシ = 莫ヲ含ムトシマス。Riemannノ写像定理 = ヨツテ, Dヲ, 其内部ノ任意ノ一莫 $Z_0$ カノ原莫 = 写サレル様ニ, 單位円  $|W| < 1$  = 等角 = 写スコトガ出来マス。此ノ写像函数ヲ  $W = f(z; z_0, D)$  トスルハ  $G(z; z_0, D) = \log |f(z; z_0, D)|$  カノ所謂 Greenノ函数ナリ。又  $\gamma$  ヲ Dノ境界上ノ或 point set トシタキ, D内ヲ"言調和ヲ"且其 Randwert ガ  $\gamma$  ナル  $1$  其ト外テ"ハ  $0$  ナル様ノ函数ヲ  $\omega(z; \gamma, D)$  トシマス。勿論  $\omega$  ハ上ノ Randwert = ヨツテ unique = 定ムモトシマス。

Dニ於ケル言調和函数ノ majorationノ問題, 多クカ,  $G$  ヲ  $\omega$ ノ majorationノ問題 = reduceサレルコトハ言フ迄モアリマセン。定理1 及レ" 2ノハ  $G, \omega$ ノ majorationヲ極大巧ニ = 且 elegantニ解イテヨルノテ"アリマス。ソレ = ツイテ紹介シマセウ。

先ツ, 言調和函数ナリカヲ,  $G$  ヲ  $\omega$ ノ conform invariant ナリ。即チ或函数 = ヨツテ Dカ  $D^* = schlicht =$  写サレタトスルトキ  $z, z_0, \gamma$ ノ Bildヲ  $z^*, z_0^*, \gamma^*$  トスルハ

$$G(z; z_0, D) = G(z^*; z_0^*, D^*)$$

$$\omega(z; \gamma, D) = \omega(z^*; \gamma^*, D^*)$$

1者,  $(z, z_0, \gamma, D) \rightarrow (z^*, z_0^*, \gamma^*, D^*)$ ノ如ク互 = Schlicht Bild = ナツテル莫, point set, 領域等ヲ互 = homologue ナリト云フコト = シマス。今  $z, z_0$ ヲ D内ニ横ハリ且長サノアル曲系  $C$

$\rho$  結合  $\rho$  である。  $C$  の長さ  $l_C$ 。 凡て  $C$  の  $\rho$  の長さは  $l_C$  の  $\rho$  である。  $\rho$  結合  $\rho$  である。  $C$  の長さ  $l_C$ 。 凡て  $C$  の  $\rho$  の長さは  $l_C$  の  $\rho$  である。

$\rho$  結合  $\rho$  である。  $C$  の長さ  $l_C$ 。 凡て  $C$  の  $\rho$  の長さは  $l_C$  の  $\rho$  である。

$\rho$  結合  $\rho$  である。  $C$  の長さ  $l_C$ 。 凡て  $C$  の  $\rho$  の長さは  $l_C$  の  $\rho$  である。

$$d(z, z_0; D) = d(z^*, z_0^*; D^*)$$

同様  $\rho$  結合  $\rho$  である。  $C$  の長さ  $l_C$ 。 凡て  $C$  の  $\rho$  の長さは  $l_C$  の  $\rho$  である。

定理 1 及び 2.

(1)  $e^{-d^2(z, z_0; D)} = 1 - e^{-2G(z; z_0, D)}$

(2)  $e^{-d^2(z, \gamma; D)} + 1 \geq \omega(z; \gamma, D)$

特  $\gamma$  が  $D$  の境界上、或 arc ならば

(3)  $e^{-d^2(z, \gamma; D)} \leq \frac{\pi}{2} \omega(z; \gamma, D)$

**注意**  $\rho$  結合  $\rho$  である。  $C$  の長さ  $l_C$ 。 凡て  $C$  の  $\rho$  の長さは  $l_C$  の  $\rho$  である。

$(z, z_0, D)$  が  $\rho$  結合  $\rho$  である。  $C$  の長さ  $l_C$ 。 凡て  $C$  の  $\rho$  の長さは  $l_C$  の  $\rho$  である。

$$\frac{|z^* - z_0^*|}{R_{D^*}} \leq \frac{l(z^*, z_0^*; D^*)}{R_{D^*}} \leq d(z, z_0; D)$$

アスカラ, (1) = ヨツテ

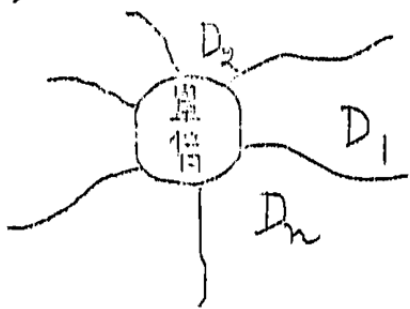
$$e^{-\left(\frac{|z^* - z_0^*|}{R_{D^*}}\right)^2} \geq e^{-\left(\frac{\ell(z^* z_0^*; D^*)}{R_{D^*}}\right)^2} \geq 1 - e^{-2\ell(z; z_0, D)}$$

即チ無限 = 多クノ仕方ヲ G+Wノ majoration カシ来ルノテス。  
 — D = schlicht + 函数ガ一ツミツカレハ"ソト"一ツノ majoration カシ来ル。

Lemmaノ冒頭 = 述ベク様ナ非常 = 一般ニナ制限ノモト  
 = アル言圖和函数ノ classノ majoration = ツイコノ一ツノ principal  
 ノ陳述ニテナルノテ"簡單" = 其傳ヲソテ專ヘニ難イカラ止メテマセウ。  
 唯之カラ導カレルニ單山ノ定理ノ中ノ一ツノ corollaryトシテ Milloux  
 ノ定理ガ得ラレルコトニ御傳ヘシキマセウ。

最後 = (2)ノ充用トシテ Denjoy-Akshofノ定理ノ導キ方  
 御紹介シテマセウ。

假定。 單位円ノ周ニカラ出テ  $\infty$  = 向ヒ凡有限ノ所ヲ"  
 = ツ宛互ニ交ラヌ  $n$ 個ノ curve = ヲツテ  $|z| > 1$  ガ" $n$ 個ノ dom  
 $D_1, D_2, \dots, D_n$  = 分テラレトシマス。 整函数  $f(z)$ ガ之等ノ curve



及ヒ"單位円周上"  $|f(z)| < 1$ トシ滿  
 且各  $D_\lambda$ ノ内部 = 夫々  $\log |f(z_\lambda)| \geq$   
 + 定数トシ  $z_\lambda$ ガ"少クモ一ツ宛アル"  
 シマス。

定理。 円周  $|z| = R$ ガ各  $D_\lambda$ ニ切リトシテ分テ夫々  $\lambda$ ト  
 $\lambda$ ノ上ニテ  $|f(z)|$ ノ  $\max \geq M_\lambda(R)$ トスレハ" $\lambda = 1, 2, \dots, n$ ニ対

$$(4) \quad \log M_\lambda(R) \geq \left(\frac{R}{R_0}\right)^{\frac{1}{d_\lambda(R)}}, \quad R > R_0 \geq \max_\lambda |z_\lambda|$$

ヲ満足スル実係数  $\alpha_i(R) > 0$  カ存在スル。

(Denjoy-Ahlfors の定理カ) (4) = 含マレテコトハ少

クモ一ツノ  $\alpha_i(R) \leq \frac{2}{\pi}$  ヲカテ明テセウ

備(4)ノ証明。  $R > \max |z_i|$  トシ内周  $|z|=R$  = ヨツテ  $D_{i,R}$

ヲ土カリトラタ部分ノ中單一連糸帯 = シテ  $z_i$  ヲ含ム domain  $D_{i,R}$

トシマス。  $D_{i,R} \cap R_{\text{ann}} =$  ナツテ  $\gamma_i$  ノ部分ヲ  $\bar{\gamma}_i$  トスレバ、明カ =

$D_{i,R} =$  於テ  $\omega(z; \bar{\gamma}_i, D_{i,R}) \log M_i(R) \geq \log |f(z)|$  カ成立シマ

スカテ (2) 及ビ  $\log |f(z_i)| \geq e =$  ヨツテ

$$(5) \log M_i(R) \geq e^{d^2(z_i, \bar{\gamma}_i; D_{i,R})}$$

ハ右也下カテ majorate

(minorate?) スルヲ

$z^* = \log z =$  ヨツテ  $D_{i,R}; i=1, 2,$

$\dots, n$  / Vereinigungsmenge

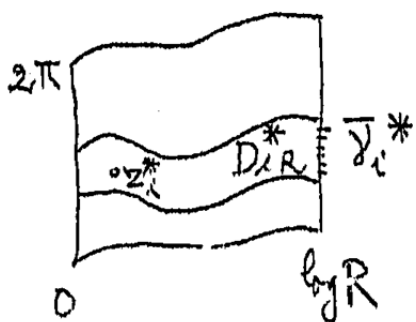
ノ面積  $\leq \pi \log R +$  domain = schlicht = 旨シマス。  $D_{i,R}$

area  $\approx \pi \alpha_i(R) \log R$  トスレバ、明カ =

$$(6) \sum_{i=1}^n \alpha_i(R) \leq 2, \quad \alpha_i(R) \geq c$$

先ノ注意 = ヨツテ

$$(7) d^2(z_i, \bar{\gamma}_i; D_{i,R}) \geq \frac{(\log P - \log |z_i|)^2}{\alpha_i(R) \log R}$$



ヨツテ  $R_0 \geq \max |z_i^2|, R > R_0$  ナラバ (5), (6), (7) カテ

$\log M_i(R) \geq \left(\frac{R}{R_0}\right)^{\frac{1}{\alpha_i(R)}}$ ,  $\sum_{i=1}^n \alpha_i(R) \leq 2$  ヲ得ル。 C. Q. F. D.